

# 証拠は決定的：ウクライナ軍がニセ旗作戦によって MH17 を撃墜した

August 3, 2014

Michael Thomas (StateoftheNation2012.com)



## アメリカとウクライナが証拠をねつ造して、ロシアと反乱軍に罪を着せた

MH17 機の撃墜が古典的なニセ旗作戦であることを直接指し示す、反論できない証拠が、現在ますます増えつつある。証拠の一つひとつは、少なくとも 3 つの国がこの犯罪と隠ぺいに関わったことを、はっきり示している。

この罪のない市民の冷酷な虐殺は、ウクライナ政府と軍部が、おそらくは CIA の監督指導のもとで行ったものだが、米・英両政府はこれまでも、隠ぺいとニセ旗作戦（リンク）をずっと実行してきた。[訳者：アメリカの **false flag operation** として、よく知られるのはケネディ大統領当時の（ケネディ自身は関係のない）Operation Northwoods と呼ばれるもので、タイプ原稿の生々しい証拠写真が公開されている。4/24 掲載「370 便機：陰謀団の背骨を折る最後のわら？（1～4）」参照。]

以下に試みるのは、アメリカが援助したニセの証拠を一つひとつ退けること、さらに、この非道な犯罪のありのままの事実を提示することである。特に、出来事を時系列的に見ると、共謀者としての米英とウクライナに対する、状況的だが確固とした告発要件が見えてくる。

旅客機を射撃して墜落させるための、この綿密に計画され、辻褄を合わせようとした、一つひとつの事実を解体するというより、むしろここでは、いくつかの論文を選んで、ありのままの事実を語らせようと思う。最初にいくつかの鍵的な証拠を簡単に要約しよう——



## 証拠の要約

マレーシア航空 MH17 便機、ボーイング 777 は、さまざまな国籍の民間人をのせて、アムステルダムからインドネシアのジョグジャカルタ市に向かっていた。ウクライナ領空に入るどこかの時点で、飛行経路を故意に変更させられた。この航空機が、反乱軍と政府軍が戦っていることがわかっている領域に近づいたとき、そのごく近くをずっと飛んでいたのが目撃されている軍用ジェット機によって、機銃掃射されたか爆撃された。

この地域全体は、アメリカ、NATO、ロシアによって、戦争の間ずっと、衛星あるいはレーダーによって非常に細かくモニターされている。したがって、MH17 に向かって発射されたミサイルがあったとは考えられない。衛星の写真/データと、レーダー・シグナチャーは、そのようなミサイル攻撃があれば、確実にこれを発見するだろう。アメリカも NATO もウクライナも、これまでのところすべて、この権威ある証拠を出すことができないのは、それが存在しないからである。

撃墜の直後さっそく、米と英とウクライナは、あらゆる手段で、虚偽のでっち上げの証拠を言い触らす宣伝運動に入った。ニセ衛星写真から詐欺的レーダー報告まで、でっち上げの社

会ネットワーク記事から、ロシアが関わっているという誤った物語まで、アメリカの“声明”に託された虚偽の告発から、反乱軍が企んだとする虚構の陰謀まで——すべてがインターネットを通じてばら撒かれ、無実の者を告発するのに利用された。

この古典的な、CIA 指南によるニセ旗作戦が、彼らの人類に対する他の国際的犯罪と違う点は、民間人を大量に殺したあとの、あまりにも軽率に細工された、ニセ証拠の一斉射撃である。これは厳密に戦争犯罪というべきものではないから、偽ってロシアと反乱軍にこれを押し付けようとする罪は倍加されるだろう。これを前もって企み計算していたことは、世界の人々には特に忌まわしいものだった。

### 何よりも、このニセ旗テロは、ロシアを悪者にするための米の仕業だった

次にあげる一連の見出しの記事を読み進むと、ますます明白に一つの嘘の物語が浮かび上がってくる。一つひとつの暴露によって見えてくるのは、ワシントン、ロンドン、及びキエフにおいて企まれた、存在しないミサイル攻撃に、ロシアを関わらせようという計画である。これこそアメリカと NATO が、本物の証拠の公表を、いっさい拒否した理由である。彼らの計略は最初から、現実の確かな事実が、すみやかに失われ、間違っただけで解釈され、または無視されるように、そして断罪の狂乱の中で誰も考えもしなくなるように、ロシアを指弾するでっち上げの証拠を、洪水のように流すことだった。

何も知らない者たちの間では、ニセ旗テロは常に、まさにこのように展開する。客観的に評価することのできる、いかなる固い事実の証拠も提出されることはない。文字通り一斉射撃のようなニセの証拠が、世界的な主流メディアのあらゆる機関を使って、目標にされた国家や団体を攻撃するために、ばら撒かれた。

この「ショックと威圧」戦術の行使は、常に、世界の英語を話す首都において始まっている（リンク）。これが、彼らが互いにスパイ活動をしない契約をしている理由である。この特定の場合には、米と英のすべての主要新聞が、ロシア攻撃のプロパガンダの大合唱を行った。ニューヨーク、ワシントン、ロンドン、及びシドニーの、主流メディアのニュース面はすべて、共謀のジャーナリスト機械を酷使して、実は彼ら自身が責められるべき犯罪と陰謀を、ロシアに押し付けて断罪してきた。この啞然とするような「ショックと威圧」メディア戦略が2~3週続いた後で、人々は虚偽の物語に圧倒され、同じ道を導かれて“メディアによる裁判”を容易く受け入れる。主流メディアをコントロールする人々は、本当の事実が決して明らかにならないように配慮しているから、国家共同体が“公式に”行きつく唯一の結論は、新聞が書いてきた通りの奇怪な話だということになる。もちろん、その場合、すべてのでっち上げ記事がもっと“悪辣な”ビデオなどに翻訳されて、無実のロシアをさらに悪者にする

わけではない。

動機付けや実行についての、現実の内部ストーリーに関しては、下の2つの物語が多くを語っている——

最初に、「G・W・ブッシュとトニー・ブレアが、マレーシアにおいて戦争犯罪人と宣告される」、次に、「マレーシア航空機ミサイル攻撃：それは MH17 だったのか MH370 だったのか？」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/first-george-w-bush-tony-blair-found-guilty-of-war-crimes-in-malaysia-then-malaysia-airliner-missile-strike-was-it-mh-17-or-mh-370/>

最初に、「EUの9か国が対ロシア経済制裁に反対の動き」、次に、「ホワイトハウスがMH17撃墜事件でロシアを非難、他に考えようがないと言う」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/nine-eu-countries-to-block-economic-sanctions-against-russia/>

次に、いくつかの他の記事を紹介するが、そのそれぞれが、真実のレーダー・スクリーン上の点の役目をする。これらの事実の点を正しくつなぎ合わせると、可能な結論は一つしかない。米、英、それにウクライナが、ロシアを人類（人道）に対する犯罪で告発し、さらにロシアを捨て置き、ウラジミール・プーチンを悪魔化するために、共謀していた。計算されたプロパガンダと、ロンドン及びワシントンから吐き出された言い逃れの、湿地の草を分けて進むと、ロシアを乞食国家として追放しようとする意図が明らかになってくる。結局わかってくることは、そのような悪魔化のやり方がこれほど迅速に、また説得力をもって成功するのは、西側によるショッキングな、国家をスポンサーとするテロ事件を通じてであり、それ以外にないということである。



ニセ物と本物両方の証拠に戻るとして、これらの論文は、否定することのできない一枚の絵を描いている。このニセ旗作戦は、ロシアを悪者にするのにこれまで成功してきたとしても、このきわめてダイナミックに展開する物語は、とうていこれで終わったなどというものではない。

「MH17 便機の撃墜：ロシアを非難するためのニセ旗作戦？」

<http://stateofthenation2012.com/?p=6355>

「プーチンは本当に標的にされていたのか？」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/was-putin-really-being-targeted/>

「ウラジミール・プーチンの飛行機が標的だったのか？」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/was-vladimir-putins-plane-targeted/>

「ウクライナ上空でマレーシア機を撃ち落したのは誰か？」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/894/>

「なぜ商業航空機が戦争地帯を飛んでいるのか？」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/943/>

「MH17 は、撃ち落とされたとき禁止領空ぎりぎりの所にいた」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/mh17-was-barely-above-restricted-airspace-when-it-was-shot-down/>

「キエフがマレーシア航空機撃墜の背後に？」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/kiev-behind-malaysian-flight-shoot-down/>

「マレーシア航空機の撃墜：西側による嘘と不気味な政治的アジェンダ」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/malaysian-plane-crash-lies-and-sinister-political-agenda-by-the-west/>

「ロシアは、ウクライナが東部に配備した Buk ミサイル装置の写真を持っている」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/china-opposes-rush-to-judgment-over-mh17-stands-up-for-russia/>

「化けの皮を剥がれた、マレーシア機撃墜の責任がロシアにあるとする、キエフのビデオ“証拠”」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/key-piece-of-video-evidence-for-russian-responsibility-for-malaysian-plane-shootdown-debunked/>

「ウクライナで撃ち落とされた西側リーダーシップ」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/western-leadership-shot-down-in-ukraine/>

「アメリカは、ウクライナ軍が MH17 を撃墜したという証拠を隠しているのか？ 米スパイ衛星はウクライナで何を見たか？」

<http://www.globalresearch.ca/is-the-u-s-withholding-evidence-that-ukrainian-troops-shot-down-mh17-what-did-us-spy-satellites-see-in-ukraine/5392743>

「キエフは、国連が国際 MH 17 撃墜調査を進めるとき、多くの質問に答えねばならない——モスクワ」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/kyiv-will-have-to-answer-many-questions-as-un-urges-intl-mh17-crash-probe-moscow/>

「マレーシア旅客機 MH17 は、東部ウクライナの戦闘ゾーンの上を飛ぶように命令された」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/malaysian-airlines-mh17-was-ordered-to-fly-over-the-east-ukraine-warzone/>

「MH17 便機——キエフのやくざたちの最後のニセ旗？」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/flight-mh17-kyiv-flash-mobs-final-false-flag/>

「中国の喝破：MH17 をめぐる“一方的な西側のロシア裁断ラッシュ”」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/china-blasts-one-sided-western-rush-to-judge-russia-over-mh17/>

「ロン・ポール “なぜそんなに急ぐ？” Re : MH17 非難」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/ron-paul-says-not-so-fast/>

「西側諸国の MH17 プロパガンダ攻撃は“ショックと威圧”レベルに達している」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/onslaught-of-usa-coordinated-mh17-propaganda-shock-awe-proportions/>

「プーチンとメルケルが、国際 MH17 調査について合意、アメリカは無視しよう」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/putin-and-merkel-agree-on-international-mh17-probe-bypass-us/>

「ロシアとの戦争への西側の向う見ずなラッシュ」

<http://themillenniumreport.com/2014/08/the-west-s-reckless-rush-towards-war-with-russia/>

次のいくつかのストーリーは、国際犯罪と隠ぺいの両方について、米、英、ウクライナの共謀を指摘する固い証拠に、現実に説き及んでいる。

「MH17 撃墜のレーダー・シグナチャーと衛星写真は、決定的な情報を開示する」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/radar-signatures-and-satellite-imagery-of-mh17-shoot-down-reveals-critical-information/>

「ウクライナの Su-25 戦闘機が、撃墜の直前に NH17 の至近距離にいるのを発見——モスクワ」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/ukrainian-su-25-fighter-detected-in-close-approach-to-mh17-before-crash-moscow/>

「民兵団が MH17 便機を撃墜したという米の主張に根拠なし——ロシア防衛省」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/us-claims-of-flight-mh17-downing-by-militia-remain-unfounded-russias-defense-ministry/>

「MH17 ペテン：撃墜現場の証拠にはボーイング 777 のエンジンが見えない」

<http://themillenniumreport.com/2014/08/mh17-hoax-crash-scene-evidence-reveals-no-boeing-777-engine/>

「ブラックボックスは、ミサイルによるものでないことを証明」

<http://themillenniumreport.com/2014/08/black-box-proves-missile-didnt-do-it/>

「MH17 の榴散弾と機関銃のような穴は、軍用航空機による撃墜を示す」

<http://themillenniumreport.com/2014/08/mh17-shrapnel-and-machine-gun-like-holes-indicates-military-aircraft-shoot-down/>

「“間違った時間、改変された映像”：モスクワがキエフの衛星データを一蹴」

<http://themillenniumreport.com/2014/08/wrong-time-altered-images-moscow-slams-kievs-mh17-satellite-data/>

「MH17のコックピットの写真は、ミサイルでなく爆撃によって撃墜されたことを証明」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/photos-of-mh17-cockpit-prove-no-missile-but-shelling-brought-down-airliner/>

「MH17は、機内に隠されていた爆弾によって撃ち落とされたのか？」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/was-mh17-brought-down-by-a-hidden-bomb-on-the-plane/>

「ロシアは米の MH17 の証拠ねつ造を非難し、米はロシア軍の関わりをさらなる“証拠”を示す」

<http://themillenniumreport.com/2014/07/russia-accuses-us-of-fabricating-mh17-evidence-as-us-reveals-more-evidence-of-russian-military-involvement/>

[訳者による追加]

ロシア司令官と反乱軍司令官の間で、犯行について交わされたやり取りとして発表された“盗聴記録”は、作成日時が7月16日（悲劇の前日）であることが判明し嘘が露見した。Flight MH17 false flag conspiracy fully exposed! –Complete compilation of all the evidence–Busted!

Special Report: Malaysian Flight false flag evidence revealed など。

以上それぞれの論文が、米、英、ウクライナの陰謀計画に見事に符合する決定的な情報を含んでいる。

このような陰謀は、LangleyにあるCIA本部のはらわたの中でなければ生まれてこないようなものである。何と云っても、CIA局長のJohn Brennanは、東西ウクライナの間には軍事的衝突が起こる直前に、キエフを秘密訪問したことを認めている。

「ホワイトハウスは、CIAのブレナン局長が“ひそかに”キエフにいたことを認める」

<http://www.zerohedge.com/news/2014-04-14/white-house-admits-cia-director-brennan-was-secretly-kiev>

**結論：**

本物の証拠がいま山のように築かれて、マレーシア機 MH17 撃ち落としの下手人は西側（西側諸国と西部ウクライナの両方を指す）であることを、はっきり示している。ウクライナ軍がこの残虐行為を犯したという以外に、事実に・状況的証拠から引き出せる結論はない。なぜ彼らがこのような“戦争犯罪”を行ったかは、権力と統制のアンгло・アメリカン枢軸との彼らの関係によって理解するよりほかはない。

グローバル・パワーのこの枢軸は、世界全体のメディアに絶大な影響力をもっている。これによって彼らは、主流メディアに彼らの好きなどんな物語でも書かせることができる。MH17 の場合には、彼らの選んだ標的はロシアであった。これには明らかな理由がいくつもある。彼らの管理室は、アンгло・アメリカンのメディア企業が、彼らのそれぞれの視聴者を、宣伝とごまかし漬けにしている、反論を扱うページも映像も許されないことを知っている。これらの、今は予測できる「ショックと威圧」の統制力が見透かされた後では、一般大衆の考え方も変わってきたので、この同じ西側諸国は、彼らのあらかじめ計画した私的裁判を実現するには、社会メディアに頼るしか方法がないのである。

世界のあらゆる国が自分に問いかけるべきことは、どうしてこのような極悪な犯罪が、道徳的に高い基準を常に保っていると自認する政府によって、犯され得るのかということである。これらの全く同じ西側の諸政府は、他の多くの、国家スポンサーによる大きなテロ事件に状況的にかかわってきたが、それは彼らだけが、そのように技術的に難しく、途方もなくカネのかかる、高度に人と物の集中力を要する、ニセ旗作戦を遂行する能力を持っているからである。

今、国家共同体がこのような、ならず者政府に対して共に立ち上がるべき時である。それぞれの国家が、経済的利益のために戦争を行うことを正当なこととして、これだけ多くの罪のない者たちを殺したことに對し、責任を負うべきである。彼らの何十年にも及ぶ国際的犯罪の乱痴気騒ぎは、もう終わりにすべきである——この惑星を荒地にしてしまう前に。